

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 令和6年5月28日開催

法人名	NPO 法人 お互いさまネットワーク	代表者	恩田 初男	法人・事業所の特徴	法人として介護保険事業と市民活動を組み合わせ「誰もが安心して生活できる地域」を目指している。 事業所としては認知症の人への支援を特徴としており、日常生活訓練（生活リハビリ）を取り入れ、利用者の精神的な安定を試みている。
事業所名	多機能ケアの喜楽	管理者	亙 智絵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	大塚さん		山本さん			富山さん		恩田・増田・佐山・亙・恩田		8

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	社内研修を継続していく。	職員会議の際、学習を行った。	皆さん良くやっている。続けて下さい。	法定研修を全員が受けられるように環境を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境	花や植物、作品を飾り、親しみやすい環境作り、居心地の良い空間作りのために、取り組みを継続していく。	花や植物の他利用者の作品や絵などを玄関に飾り、より家族や地域の人が親しみやすい環境づくりに努めた。	意見なし	前回の改善計画を継続する。外見、音、臭い等の他にも人的環境にも配慮し、気持ちの良い挨拶や笑顔での対応を心がけていく。
C. 事業所と地域のかかわり	お互いさまだより、HPの活用を継続し、ブログの書きこみなどによりPRに努める。	お互いさまだよりの発行、ブログの書きこみを行った。	一方的な周知ではなく、双方の認識が出来ると良い。	会報の記事をわかりやすく親しみやすい言葉で作成し、伝わるように努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	イベントを区長、民生委員に告知し来てもらい情報交換を行う。	徘徊対策の話し合いや本人の居住地域の近所の人や、よく行くお店の人などと連携を取った。	事業所名を聞いただけでわかる強みを生かした関わりをして下さい。	地域の協力者と顔の見える関係を作り、連携していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明することを継続していく。事業所内を実際見ていただく機会を作る。	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明した。事業所見学をしていただいた。	地域に浸透させるものがあれば。見学はした方が良い。	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明することを継続し、意見を改善につなげていく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する。災害時の対応について理解を深める。	地域の防災訓練に参加することを計画したが、発熱者が出たため参加できなかった。災害時の対応については、職員会議時に学習を行った。	シミュレーションをすることにより、職員がわがこととして考えられるのでは。	災害時の業務継続計画を、BCP訓練を通して理解を深める。